

2020年4月22日

検証報告書への意見及び再発防止のための考え

ジャーナリスト
神奈川大学国際日本学部特任教授
江川 紹子

1. 検証や対応マニュアル等再発防止策について

今回の事件を市が重く受け止め、1人ひとりが「自分の持ち場で食い止める」という認識で、改善を行おうという高い意識を感じた。携わった市職員の皆様の思いの深さを感じ、その努力に心からの敬意をお伝えしたく思います。

そして今後も、今と同じ緊張感をもって、自分が子どもの命を守る、という自覚で対応をし続けて欲しい、と願うものです。

1つ、残念だったのは、加害者家族へのアプローチの欠如です。

検証についても、加害者家族には何の協力要請もなかった、と聞きます。この家族は、犯罪加害者家族支援のNPOに相談をし、その助言のもとに裁判前に記者会見を開きました。市からの要請があれば、何らかの協力が期待できました。

聞くところによれば、 被告が虐待を受けて育った、ということはないようですが、かなり父親による支配的家族構造だったと見受けられるようです。その状況を十分聞き取ることで、参考になることもあったのではないのでしょうか。

それは、今後やっても遅くはなく、何らかの検討がなされるとよいと思います。

また、こうした事件があった場合、加害者家族も市民なわけで、彼らを守ることも頭の隅に入れておいた方がいいような気がします。

2 今後の対応について

作られたマニュアルを、常に改善しながら、今の思いを忘れずに子どもたちを守って欲しいと願います。

ただ、時間が過ぎると、どうしても事件で受けた衝撃などの記憶は薄れます。

また、事件をよく知らない若い世代が入ってくる時期もいずれ訪れます。そういう未来にも、今回の事件を引き継ぎ、「二度とこういうことがないように」という思いを常にフレッシュなものにしておく努力が必要でしょう。

それは、職員だけではなく、市民全体が共有できるものであって欲しいと思います。なぜなら、市民からの通報や連絡が虐待発見の糸口になることもあるでしょうから。

そのために、たとえば「児童虐待根絶宣言」のようなものを作って市民と共有し、1月24日を「野田市児童虐待防止デー」にして、その前後に啓発イベントを開く、というようなことを考えてもいいのでは？そのための条例は「 ちゃ

ん条例」と名付け、■■■■ちゃんのことを長く忘れない、それによって現実に生きていた■■■■ちゃんという子どもの命が失われたことを伝え、毎年その記憶を蘇らせたらどうでしょう。そうすることが、虐待根絶に向けての思いを新たに
する力になるように思います。

最後に、野田市がこの悲しい出来事を経て、子どもの命が最も守られるまちになった、と言えるようになることを祈っています。